

年 頭 の 辭

會 長 田 中 清 治

新年お目度とうございます。昭和27年の新春を迎うるに當り聯か所感を述べて年頭の辭といたします。

敗戦後長い間、占領下にあつた我國が愈々今年は近く占領から開放され獨立國として國際社會に復歸することが出来るであらう。誠に輝かしい記念すべき年ではあるが、獨立に伴い負はねばならぬ國際上の責務や到底緩和されそうもない自由國家とソ連との對立による國際情勢の激化を思う時一段の覺悟を促される次第である。

我製鐵業は米國の援助により著しく生産額を増したとは云え、その基礎未だ鞏固ならず、國際情勢によつて影響されることが餘りにも甚だしく、かくては目下最も急務とする自立經濟の達成に對する我製鐵業の役割を果すことが困難である。その原因は主に敗戦後原料事情が極めて不利になつたことと設備の近代化が未だ完成されないことである。最近東南亞の開発も着手されるに至り、特に比島の鐵石はその量的に又特にその安定性に於て我製鐵業に於ける意義は極めて大なるものがあり、我製鐵業は東南亞を舞台として發展し得る曙光をも見られよう。原料事情の改善は關係諸國の協力なしには得られず、今後一段の國家的努力が望まれるのである。次に設備の近代化は各社ともその達成に努め又日米技術提携により技術の向上に努めているが之れも容易ならぬことであるが、この程度の近代化は是非なさねばならぬ最小限度とも云うべきで今後一段の努力によつて速かなる達成を願はざるを得ない。

最近英獨を視察された方々のお話を聞き又記事を讀んで國難に處する彼等の態度には心うたるものがある。獨逸は人的にも物的にも慘憺たる被害を受けた上に、めばしい設備は悉く撤收された。又國際情勢の不安は日本等では想像されない程のものがあらう。又國內的には900萬に餘る難民が社會的にも政治的にも容易ならぬ不安の種となつて居り、これ等の難民は戰爭の末期に着のみ着のまゝで避難して來たもので特に東部獨逸からのものは外に技能を持たぬ農民で、彼等は故郷を奪はれ、共產ソ連を恐れて歸國を斷念し、そのまゝ居座つたものである。かような苦境に處し、アデナウアー首相は努力こそ敗戦國の唯一の武器なりとして一段の努力を要請したのに應え彼等は日夜復興に努め全く灰燼に歸した大工場も僅か2ヶ年の短日月で全く元の状態にまで復興したと云う。而も他より何等の援助を受けず全く自力で勞資協力して達成したのだと云う。正に奇蹟としか思われず、然し目のあたり現實を見ては疑うこともならず、人間の意志力はかくも偉大なるものかと驚歎したと某氏が感想を述べている。

戦勝國である英國は福祉國家としての莫大な費用、50億ポンドに上る再軍備3ヶ年計畫、之が輸出に影響して輸入超過の三重苦から國家破産の危機に直面しているがこの對策は外國からの借款をふやしたり、軍備を縮小したりすることではなく、一層烈しい努力と大々的な國家的努力による全體的な増産によつてこれ等の費用を賄ふにありと廣く意見は一致して居り、この國家破産に打勝つためには英國が第二次大戰の最中にも經驗しなかつた程の耐乏生活にも耐えねばならぬとし、この勝利を疑うものは一人もないと云うことだ。

英國民と云い、獨逸國民と云い、眞に大國民としての精神的要素を具備していると思う。ノーベル賞受賞者獨逸文豪ヘルマン・ヘッセが日本の友人某氏に宛てた書面の一部が某新聞に掲載されたが「現在直面している苦しみから逃れようとしたり隠れようとしたりせず運命を恐れずに勇ましく進んでいけば尊いものが創られるのであり、そこに運命の良さが滲んで來るであらう……敗戦國である日本と獨逸がもつ共通の苦しみをお互に美しい精神を堅持して生き抜いて行かねばならぬ」と云うのである。いかに、うちくちかれても、如何なる苦境にあつても自信を失わず立ち上る強靱な力は神を信じ運命の良さを知る深い人生觀によつて培はれたる魂からはじめて生ずるのではあるまいか。

今年は獨立國としての首途の年である。豫測し難い國際情勢の變化、たい如何なる事態にも之に應ずる心構えを以て我製鐵業の基礎を培い益々鞏固ならんことを祈る次第であります。